

競技注意事項

- 本大会に適用する規則は、2018年度日本陸上競技連盟規則と監督会議の申し合わせ事項を適用する。
- 練習について
 - 練習は、補助競技場を使用する。
ただし、投てき競技については、危険防止上、招集完了後主競技場で役員の指示により行う。
 - 練習は、危険防止に特に留意し、必ず係員の指示に従うこと。
 - 雨天時は、スタンド下の雨天走路を使用のこと。
- スパイクシューズについて
 - 競技場は全天候舗装のため使用するスパイクの長さは9mm以下とする。
ただし、走高跳およびやり投は12mm以下とする。

4. 招集について

- 招集所は、第4コーナー西側マラソンゲート外側(補助競技場との通路付近)に設ける。
- 招集時間は、次の通りとする。

	予 選		準決・決勝	
	開 始	終 了	開 始	終 了
トラック競技	30分前	15分前	30分前	15分前
跳躍競技	—	—	60分前	30分前
投てき競技	—	—	60分前	30分前

- 招集完了時刻の5分前に招集所に入り最終点呼を受ける。

その際、役員にナンバーカード・スパイクの長さおよび、バック等の商標のチェックを受けた後、競技者係の指示に従う。

- 参加者のトレーニングウェア・ユニフォームのマークは、日本陸上競技連盟規格のものを使用すること。
- 招集完了時刻に遅れた場合は、当該種目を棄権したものとして処理する。
- 代理人による最終点呼は、認めない。
ただし、他の種目に出場している等、特別の理由がある場合は、本人又は代理人がその旨を競技者係主任に申し出ること。
- リレー競技のオーダーは、競技開始60分前までに招集所に提出する。

5. ナンバーカードについて

- ナンバーカードは、交付された大きさのままで明瞭に見えるよう、ユニフォームの上部につける。
トラック競技に出場する競技者は、招集所で配布された腰ナンバーカードを右腰につける。

6. 走路順、試技順および番組編成について

- トラック競技予選の走路順およびフィールド競技の試技順は、プログラム記載のレーン順、試技順に行う。
- 準決勝・決勝の組み合わせおよび走路順は、主催者が公平に決定し、その結果を競技者招集所および記録掲示板に掲示する。
- タイムによる「+α」のある競技種目は、100分の1秒単位を用いて決定する。
同記録が多数出た場合は、第167条2による。
写真を拡大して優劣を判定して進出者を決める。それでも決められない場合は、抽選をする。

7. 走高跳・棒高跳について

- バーの上げかたは、次のとおりとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9
走高跳(男子)	1m80	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	2m05	2m10	2m15	+3cm
	2m00									
走高跳(女子)	1m45	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	1m76	1m79
	1m70									
棒高跳(男子)	4m30	4m00	4m20	4m30	4m40	4m50	4m60	4m70	—	—
	4m60									
棒高跳(男子)	3m20	3m30	3m40	3m50	3m60	3m70	—	—	—	—
	3m50									

- 荒天の場合は、審判長の判断により変更する。
- 第1位の決定のためのバーの上げ・下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。
- 棒高跳の支柱移動の希望は、跳躍審判主任に申し出る。

8. 三段跳踏切板の位置について

- 男子:12m00、女子:9m00とする。

9. 競技用器具について

- 競技器具は、競技場備付けのものを使用する。
ただし、棒高跳用ポール、投てき器具(砲丸・円盤・やり・ハンマー)は、各人所有のものを検査の上使用する。
投てき器具の検査は、各種目競技1時間前までに招集所で行い、検査品の器具については、招集所預りとする。
棒高跳ポールは、跳躍場で跳躍審判が随時検査を行う。
- リレー競技の第2走者以後のマーカ―は、主催者の用意したものを使用する。

10. 給水について

- 5000m以上のトラック競技においては、気象条件により、審判長の判断で給水を実施する。

11. その他

- 表彰は各種目決勝終了後、ただちに表彰式を行うので3位までの入賞者は速やかに玄関ホールに集合すること。
(各種目とも、3位まで賞状と副賞を授与する。)
- 団体総合および優秀選手の表彰は、閉会式の時行う。
(総合得点で同点が生じた場合は優勝種目数の多算による。
なお、優勝種目同数の場合は第2位、第3位の数により以下これに準ずる。)
- エントリー後に棄権する場合は、開会式終了時までには必ずプログラムに添付してある棄権届を大会本部に提出すること。
- 男子10000Wについては、50分を過ぎた場合、競技運営上、次の周回を中止することがある。
- 男女共に、10000Wについては、58分を過ぎて新たな周回には入れない。
- 今大会の記録証明書が必要な選手は、記録室で発行するので記録主任に申し出ること。
(有料500円)